

1. イワシ類漁況～2014年漁期のまとめ

(1) シラス

2014年は、例年よりやや早い4月上旬から本格的な操業が始まり、4～5月の漁獲量は高水準で推移しました。しかし、6月になると漁模様は悪化し、多くの市場で2ヵ月近くにわたって水揚げがみられないなど、7月下旬まで極端な不漁となりました。その後8月に入ると、外海、内湾ともに漁場が形成されて漁獲は回復し、秋漁も10月を中心に好漁となるなど、年末まで順調な水揚げが続きました。県内の年間漁獲量は約7,800トンで、前年（約5,400トン）および平年（約5,300トン、10年平均）を上回りました。

単価は、5月に平均5,000円台（カゴ約20kgあたり）と低迷したものの、夏秋季には概ね10,000円以上が維持され、漁獲量が高水準であったにもかかわらず堅調に推移しました。その結果、県内の年間水揚げ金額は約36億円となり、これは昨年の159%、平年（10年平均）の121%で、金額面でも良好な漁期となりました。

表1 愛知県シラス漁獲量（トン）

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
2009	0	0	0	58	63	1,228	1,602	808	351	198	116	84	4,508
2010	0	0	0	7	440	753	256	220	782	1,642	365	39	4,503
2011	1	0	0	169	583	1,168	1,219	517	677	547	478	279	5,637
2012	9	0	0	110	444	832	1,383	1,167	679	1,142	496	181	6,443
2013	4	0	0	723	1,667	374	250	295	1,248	322	353	127	5,363
2014	0	0	0	594	2,828	527	18	891	672	1,400	592	236	7,758
10年平均	5	0	7	353	1,084	928	699	609	611	549	327	151	5,324

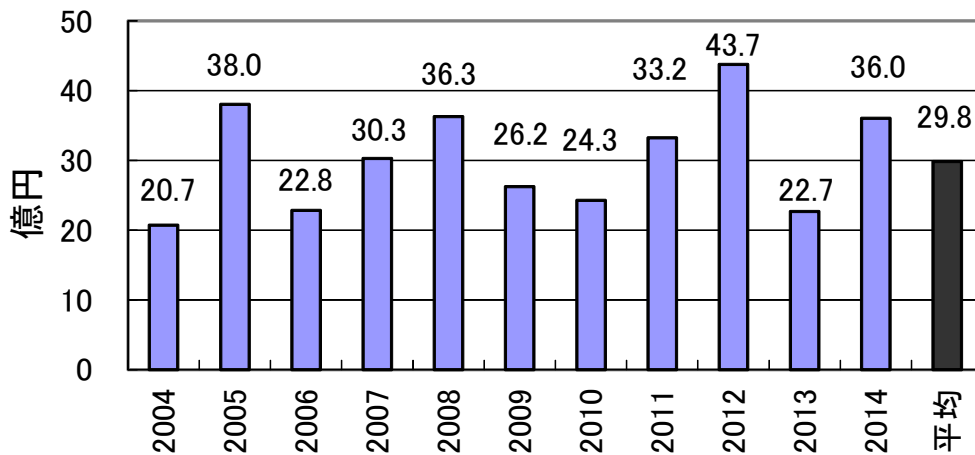


図1 愛知県シラス水揚金額（年計） ※「平均」は2004～2013年の平均。

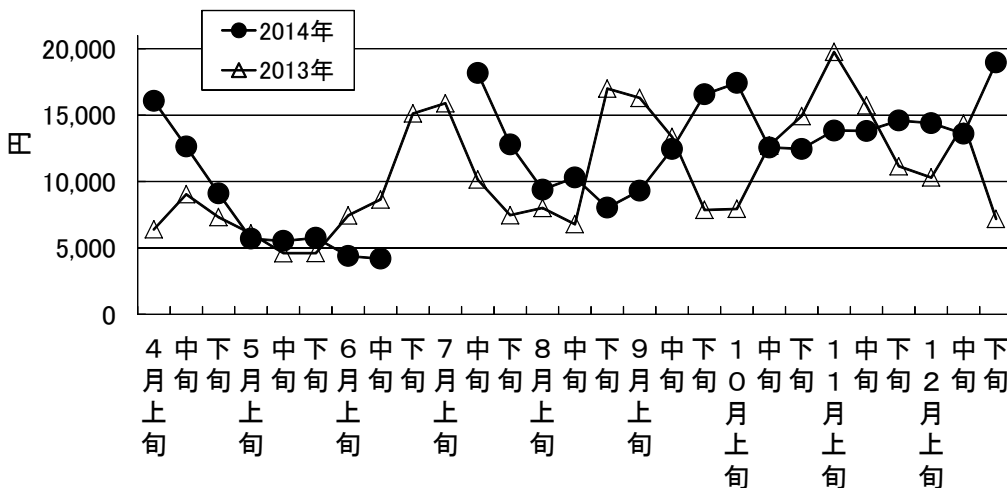


図2 愛知県シラス平均単価（円/カゴ20kg） ※2014年6月下旬～7月上旬は水揚げなし。

(2) カタクチイワシ

2014年は、例年よりやや早い4月中旬に成魚の来遊がはじまりましたが、5月下旬まで漁獲に大きな伸びはみられませんでした。しかし、その後、新たに来遊した成魚や春シラスから成長した未成魚が漁獲対象となり、6～7月の水揚げは大きく増大しました。8月中旬以降、漁獲はやや低調となったものの、秋季には秋シラスに由来する未成魚も漁獲に加わり、年末までますますの水揚げが維持されました。

県内の年間漁獲量は約22,000トンで、平年(約16,000トン、10年平均)を上回り、昨年並みの好漁となりました。また、ぱっち網による年間水揚げ金額は約7億8千万円となり、漁期を通じて高単価であった昨年(約8億9千万円)を下回ったものの、平年(約6億4千万円、5年平均)を上回りました。

表2 愛知県カタクチイワシ漁獲量(トン)

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
2009	0	160	0	610	3,155	1,846	3,752	3,430	3,041	1,964	734	129	18,820
2010	0	0	0	0	1	1,529	4,844	4,819	1,775	590	1,497	973	16,028
2011	37	92	116	561	768	1,945	3,610	4,935	572	159	294	401	13,491
2012	46	0	0	260	1,471	1,792	1,824	3,704	2,197	483	851	354	12,983
2013	0	0	0	0	803	2,680	4,794	5,382	2,382	1,082	2,811	1,768	21,702
2014	446	0	0	655	269	2,864	5,389	3,742	3,009	2,609	1,971	703	21,657
10年平均	50	33	12	148	750	1,818	3,653	3,815	2,161	1,316	1,138	669	15,563

(3) マイワシ

2014年は、春季のマイワシシラスの来遊量が高水準であったことから、これらの成長によって、夏季以降、かなりまとまった水揚げとなることが予想されました。7月以降、漁獲が本格化すると、期待どおり例年を上回る水揚げが年末まで続きました。しかし、魚体に例年ほどの成長がみられなかったため、漁期を通じて漁獲は小型のものが主体となることが多く、漁獲尾数のわりには漁獲量が伸びませんでした。

県内の年間漁獲量は、ぱっち網で約3,300トン、まき網で約1,200トン、計約4,500トンとなりました。また、ぱっち網によるマイワシの水揚げ金額は約2億3千万円で、昨年の約1億1千万円を上回っています。

近年、全国的にはマイワシの資源量は増加傾向と評価されてきました。2014年は、ようやく県内にもその影響が現れてきたものと考えられます。11～12月のシラス漁獲物には、この時期としては例年になく多くのマイワシシラスの混入がみられており、2015年漁期の動向も注目されます。

表3 愛知県マイワシ漁獲量(トン)

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
2009	0	8	0	0	6	0	6	18	1	0	3	0	41
2010	0	0	0	0	0	2	288	653	675	247	17	0	1,881
2011	0	0	1	0	2	29	361	1,223	1,091	264	68	4	3,044
2012	0	0	0	0	0	72	49	499	214	52	0	0	886
2013	0	0	0	0	1	8	107	577	295	3	0	0	992
2014	0	0	0	<1	0	104	269	1,547	1,334	617	422	180	4,474
10年平均	0	1	0	0	2	22	140	414	290	104	29	6	1,006

表4 愛知県マイワシシラス算定漁獲量(トン) ※シラス漁獲量と混入割合から算定。

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
2009	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
2010	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	10
2011	0	0	0	0	31	0	0	0	0	0	3	11	45
2012	0	0	0	8	1	0	0	0	0	0	0	0	9
2013	0	0	0	17	62	6	0	0	0	0	0	0	85
2014	0	0	0	96	414	44	0	0	0	0	9	37	601
10年平均	0	0	2	20	13	1	0	0	0	0	0	1	37

注) 漁獲量は、小数点以下を四捨五入するため、合計と一致しないことがある。

※ 漁獲量等の各数値は、水試調べのものです。また、漁業種類は、しらす船びき網、ぱっち網、まき網のみです。

写真1 2014年4月7日シラスの水揚げ（師崎漁港での初漁）



写真2 2014年7月27日、同9月10日パッチ網によるマイワシの水揚げ（豊浜漁港）



2. 海況予測

現在、渥美外海では、12月下旬～1月上旬の暖水流入の影響で、水温はやや高めとなっています。沿岸の流況は、流入した暖水が沖合で渦状に滞留しているため、大きくみて東向きの流れが主体になっていると考えられます。

12～1月は、イカナゴの産卵～ふ化期にあたります。主要なふ化場である外海の湾口部から、伊勢・三河湾内へ進入するイカナゴ仔魚の量は、西向きの流れが強いほど多くなるといわれており、その影響が懸念されます。

以下の海況予測によると、黒潮流路は現在のN型（直進型）からC型（八丈島の南を通る）の傾向を強める見込みです。また、四国沖にある蛇行部が、徐々に東進してくるもようです。このため、今後、暖水の影響は弱まり、渥美外海の水温も平年並みに近づくと予想されます。しかし、2～3月にかけて、黒潮蛇行部が潮岬に接近～通過する際には、再び水温が上昇する可能性もあります。

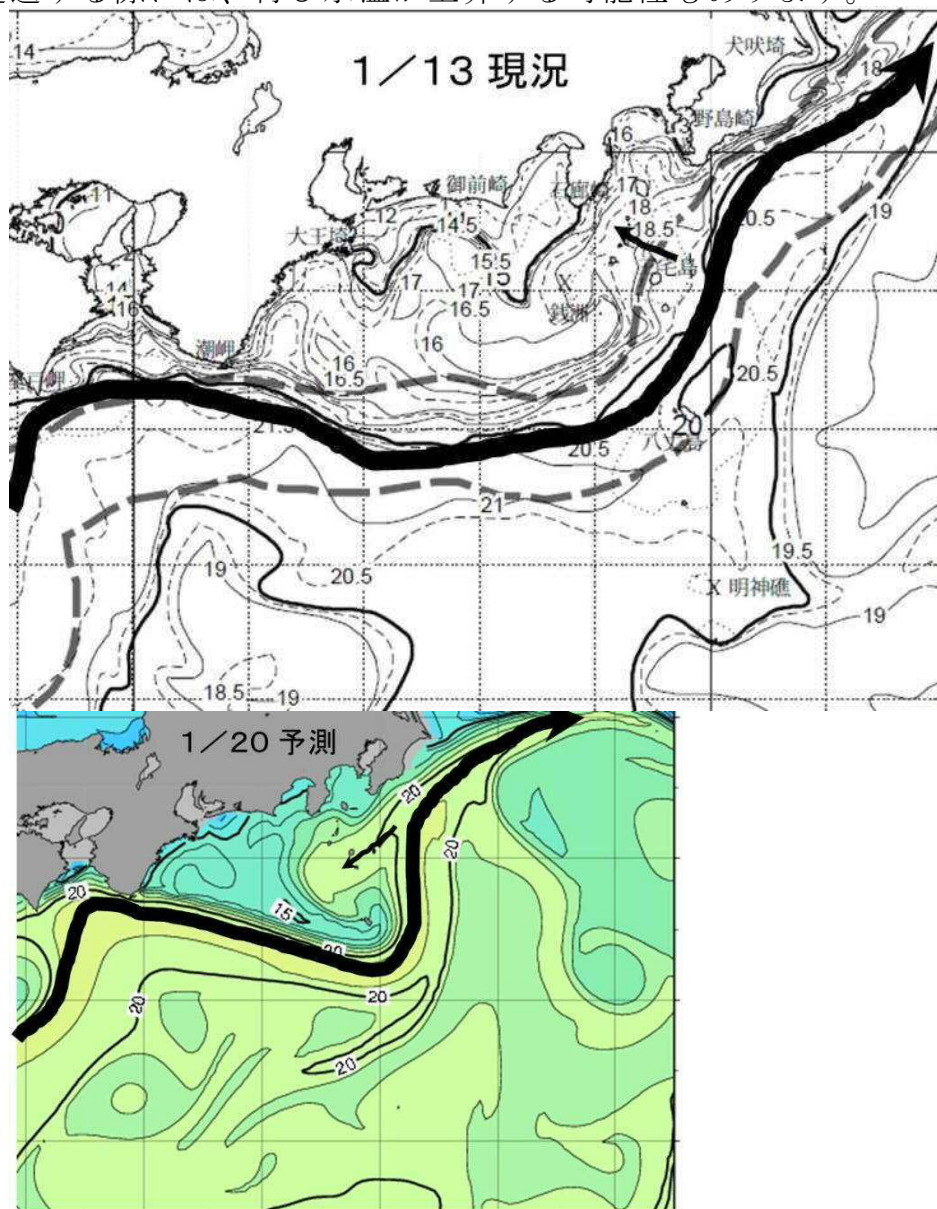


図1 海況の現況及び予測 [2015年1月13日、1月20日]

※矢印は黒潮流路と暖水流入。現況図は(社)漁業情報サービスセンター提供の南西東海沿岸海況情報によるものです。予測図の水温分布は、気象庁で運用されている海況予報システムMOVE/MRI.COMの予報出力結果をもとに、水産総合研究センターで作図されたもので、水温は水深50mの予測水温です。